
やっちまった話

愁水

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

やつちまつた話

【Zコード】

Z8964Y

【作者名】

愁水

【あらすじ】

一回り歳が離れたダンナと、私はそんな二人の生活のワンシーン

.....。

こんな妻を、許してくれ。

これはある真冬の、夜の出来事。

夜中、眠っていた私は、ふと、目を覚ました。

（まだ一時か二時くらいかな……ねむねむ……）

眠氣で重い瞼を、再び閉じる。だが、その時

「…………ねむこ」

小さな声だったが、それはダンナの声。はつきりと、隣りから聞こえた。

（ん……？）

私はもぞりと寝返りして、隣りのダンナを見る。そこには

！！

電気ストーブのタイムが切れた極寒の部屋、布団を全部私ひとりで、身体を胎児みたいに丸めて震える、ダンナの姿だった。

（…………！……！）

ダブルの敷布団、ダブルの毛布を使っていたので、どんなにあつたかい掛け布団でも一人で一つ。つまり、どちらか寝返りでもした

り、無意識にひっばつたりすれば……。

ひつなる。

で、でも、こんなっ……！……かるく（ダンナ）にひつてはかるい
（じこりではないけど）拷問じゃん……！……

（）の後すぐに、そつ、と彼に布団を掛け直したのは、言つまでもない。

翌朝。

私「ねえねえ、昨日の夜中にさあ……なんか言つた?」

ダンナ「? なんかつて?」

私「いや、寝言みたいな」

ダンナ「? 全然覚えてないなあ。俺なんか言つてたの?」

私「別に」

私は言わなかつた。布団一人占めにしてたなんて……言えねえ……。フルフルとウサギみたいに震えていたダンナの姿、今でもちょっととトラウマ + 爆笑。

しかしあの時、私が偶然目を覚ました時の、絶妙のタイミングでのダンナの悲痛な寝言。やはり、無意識でも「寒いよーーーーー」ってことを訴えたかつたのだろうか。

「ごめん、ダンナよ……。

母にこの話したら、大爆笑だつたよ……。
所詮、そんな扱い。

(後書き)

ダンナネタは沢山あるので、またいざれ書きたいと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8964y/>

やっちまった話

2011年11月26日22時49分発行